

誠実な人となれ

かい ほさか たけし
甲斐市長(山梨県) 保坂 武

マイ
プライベート
タイム



阿波踊りを披露する私

人と交わり、共に楽しむのが好きで、おかげさまで多趣味です。若い頃は華やかな社交ダンスに夢中になり、お祭り好きが高じて立ち上げた阿波踊りの「竜王みゆき連」や、地元に新しい伝統芸能を根付かせたいと設立した「信玄太鼓保存会」は、今や地域のイベントには欠かせない存在となっています。最近では、機会を見つけて披露する「どじょうすくい男踊り」や「皿回し」で、皆さんを笑顔にするのが私の喜びです。

また、子どもの頃から続いているライフワークが、鈴虫の飼育です。鈴虫の音色を平成12年春から2年間にわたる母の介護がきっかけでした。その最期を看取るまでの記録を川柳として残すことで、5人の兄弟姉妹にも母の心を知つておいてもらいたいと考えました。また、私の介護川柳を読んだ方と、介護の大切さや苦労を分かち合い、励まし合えればと思つております。「深いシワ 苦労したねと 声かけて」で始まり、「母送り 追悼の涙 雨となり」で終わる970句からなる句集『母(花子)の介護川柳』は、母と私の日常をつづった、母に対する最後の恩返しの記録であり、今でも私

の人生のモットーは、「誠実な人となれ」です。この言葉は、母校の校訓とも深く通じるもので、若い頃に青年団活動を通じて地域を良くしたいと考えていた私の気持ちと自然と重なり、32歳で政治の道へ進むきっかけとなりました。

希望者には鈴虫を差し上げ、育て方を伝えることで、「鈴虫の輪」が広がり続けています。聴くと、遠い子どもの頃に感じたふるさとの情景が鮮やかに思い出されます。この感動を多くの皆さんと共有したく、鈴虫愛好家と「鈴虫の声を聴く甲斐」を結成しました。毎年、愛好家の方々と10000匹近くの鈴虫を大切に育て、地元の竜王駅に展示し、駅の利用者に一時の安らぎを提供しています。さらに、

母との思い出を川柳で

もう一つのライフワークは川柳です。何気ない日常の出来事や喜怒哀楽を切り取る川柳は、忙しい日々の中で気持ちをリフレッシュさせてくれます。

私が川柳に親しむことになつたのは、平成12年春から2年間にわたる母の介護がきっかけでした。その最期を看取るまでの

の大切な宝物です。

その後も、地域の川柳会に参加するなど、その時々の気持ちを、素人ながら五・七・五に並べて書き留めています。句を生み出す苦しみと、苦労して良いものが出来たときの充実感は格別です。最近では、80歳になつた気持ちを吟じた句を地域の敬老会などで披露し、市民の皆さんに楽しんでいたたく機会も得ています。これからも、日々の暮らしの中で感じる小さな発見や感動、そして人生の機微を正直に五・七・五の調べに乗せていきたいと思つています。



大切に育てた鈴虫

狼煙リレープロジェクト

甲州軍団出陣はこの狼煙から始まる

市の舞鶴城へ伝達する」というストーリーを考えました。

このプロジェクトの始まりは、南信州出身の知人から聞いた「武田信玄狼煙会」（平成20年から活動）の存在がきっかけでした。

この会は、信玄公が情報伝達に用いた狼煙に着目し、リレー形式で狼煙をつなぎ伝え、「世代を超えて地域の歴史文化を学び、地域と地域、人と人との交流・連携」を目的に活動しています。彼らの悲願は、狼煙を長野県の伊那谷から武田氏の本拠地である甲府市の躰躅ヶ崎館跡（現在の武田神社）までつなぐことでした。

私は、彼らの熱い思いに心を打たれ、山

梨県側での狼煙リレーの実現を決意し、関係市長や友人らへ呼びかけました。

平成28年4月、第一歩として韮崎市（1カ所）、甲斐市（2カ所）、甲府市（1カ所）の4カ所で狼煙リレーを実行しました。

この狼煙リレーに意味を持たせるため、「信玄公祭り」（世界



甲斐市内での狼煙リレーの様子

一の武者祭りとしてギネス世界記録に認定されているイベント）と連携させ、狼煙の情報によつて「信州の異変とそれによつて甲斐市から甘利備前守虎泰隊が出陣する旨を本陣である甲府

陣に連絡し、甲府市内の各所の会場で狼煙の到着が放送され、祭りを盛り上げました。その後、山梨県側で狼煙を上げて6回目に当たる令和3年、武田信玄公生誕500年という節目に合わせ、「願いを繋ぐ、280キロの狼煙リレー」と題して、狼煙リレーを実施しました。岐阜県や愛知県との県境にある長野県根羽村から躰躅ヶ崎館跡までの間の68カ所で狼煙を上げ、スタートから約2時間後、無事、躰躅ヶ崎館跡で狼煙を確認。ついに南信州の皆さんの悲願が実現しました。

次の年、令和4年からは、山梨県内と諏訪地域で狼煙リレーを実施。信玄公祭りにおいて武田神社で行われる「戦勝祈願祭」の前に、「信玄公が狼煙リレーにより信濃の異変の情報を受け、出陣を決意した」という流れを演出し、甲州軍団出陣の始まりを飾る役割を持たせました。

さらに令和5年からは、伝統の狼煙に現代の乗り物を合わせた新しい試みを導入し、「特急あづさ伝令隊」と名付けた伝令隊が、特急あづさで上諏訪駅を出発すると同時に狼煙リレーもスタート。あづさが甲

府駅に到着した後、伝令隊は自転車に乗り換え、武田神社まで知らせを運ぶという、狼煙の速さと現代の伝令隊の速さを競うイベントを企画し、実施しています。

狼煙リレーは、各箇所での主催者である公民館や育成会、企業や保存会などさまざまな組織がつながり、協力し合うとともに、参加する各地の方々のふるさとへの愛着を育む場となっています。



特急あづさ伝令隊の出発前、金子ゆかり諏訪市長（右端）もご一緒に（JR上諏訪駅にて）